

CUVIC サービスでの Red Hat 製品提供について

弊社の各 CUVIC サービス（TechnoCUVIC サービス、CUVICmc2 サービス）上で Red Hat 社の OS 製品やミドルウェア製品をご利用いただく場合、CCSP オンデマンドで提供するサブスクリプションをご利用いただけます。

また、お客様のオンプレミス環境から各 CUVIC サービスへ OS ごと移行いただく（P2V や V2V）場合に一部の Red Hat 社 OS 製品のオンプレミス環境でご利用中の有効なサブスクリプションを次回契約更新までの間持込み利用いただけます（これを Red Hat Cloud Access と言います）。

▼ 目次

1. CCSP オンデマンド について	2
2. Red Hat Cloud Access について	3
3. CCSP オンデマンド と Red Hat Cloud Access の差異	4
【補足】 Red Hat Cloud Access ご利用時の各種手続きについて	5

1. CCSP オンデマンド について

弊社が Red Hat 社に認定を受けた製品／バージョンのサブスクリプションを、月／1 年／3 年単位のご契約にて弊社 CIVIC サービス上でご利用いただけます。

※弊社が認定取得済みの製品や、製品ごと選択可能な契約期間の詳細は下記の「表 1. 提供サブスクリプション」をご覧ください。

表 1. 提供サブスクリプション

項番	弊社がCCSPでご提供可能なRed Hat社製品	提供可能バージョン	課金単位	オンデマンド契約期間		
				月単位契約	1 年契約	3 年契約
1	Red Hat Enterprise Linux Server	6以降	Small ※1	○	○	○
			Large ※2			
2	Red Hat Enterprise Linux for SAP Applications	6以降	Small ※1	○	○	—
			Large ※2			
3	Red Hat Enterprise Linux for SAP HANA	6以降	Small ※1	○	○	—
			Large ※2			
4	Red Hat Enterprise Linux Server for Virtual Datacenters	6以降	—	—	○	○
5	Red Hat Enterprise Linux for Virtual Datacenters for SAP Applications	6以降	—	—	○	○
6	Red Hat JBoss Enterprise Application Platform	7以降	4core	—	○	—
			16core	—	—	○
			64core	—	○	○
7	Red Hat JBoss Web Server	3以降	4core	—	○	—
			16core	—	—	○
			64core	—	○	○

※1 : Small は 4vCPU 以下の仮想マシン

※2 : Large は 5vCPU 以上の仮想マシン

【注意事項】

上記 項番 3 の「Red Hat Enterprise Linux for SAP HANA」は 2019 年 2 月 28 日で提供が廃止されます。後日、置き換え製品の情報へ記載を変更予定です。

2.Red Hat Cloud Access について

CCSP に基づき、一部の製品に関してはエンドユーザー様にご契約されたサブスクリプションを弊社の CUVIC サービス上へ移行し動作させることが可能です。

※弊社 CUVIC サービス上で Cloud Access 利用が可能な製品の詳細は下記の「表 2. Cloud Access 利用可能製品」をご覧ください。

表 2. Cloud Access 利用可能製品

Cloud Access で弊社CUVICサービスに持込み可能な製品		
製品名	SKU	持込み可能バージョン
Red Hat Enterprise Linux Server, Premium (Physical or Virtual Nodes)	RH00003 RH00003RN	6以降
Red Hat Enterprise Linux Server, Standard (Physical or Virtual Nodes)	RH00004 RH00004RN	6以降

※ハードウェアベンダーからサブスクリプション販売・サポート提供される OEM 版の Red Hat 社製品は Cloud Access ではご利用できません。

3. CCSP オンデマンド と Red Hat Cloud Access の差異

弊社 CIVIC サービス上で製品をご利用いただく上で両者には以下の違いがございます。

表 3. CCSP オンデマンドと Cloud Access の違い

比較項目	CCSPオンデマンド	Red Hat Cloud Access
製品のイメージ（バイナリ）	OSインストール済みの仮想マシンテンプレートイメージを弊社より提供 ミドルウェア製品はお客様が弊社提供のリポジトリから入手しインストール	お客様自身でインストール済み仮想マシンイメージをご用意いただき、弊社クラウドサービス環境へインポート
リポジトリサーバー	弊社内にリポジトリサーバーを用意、お客様へ提供	お客様はRed Hat社が提供するリポジトリサーバーを利用
製品サポート	弊社クラウドサービス基盤に関する問合せ窓口（サービスデスク）にて提供サブスクリプションに関する問合せ受付・対応実施、Knowledge Baseの提示	お客様はRed Hat社と直接サポートをご契約いただき、Red Hat社の問合せ窓口を利用
申請手続き	サブスクリプションの購入手続き以外にお客様にて特別な申請手続きは不要	以下の両手続きをお客様にて実施 ・ Red Hat社WebサイトでのCloud Access利用申込 ・ 弊社ポータルサイト（Service Gateway）からのCloud Access利用報告
契約更新	同一のサブスクリプションをお客様がご希望の利用期間に応じて引き続きご契約可能	お客様がRed Hat社とのサブスクリプション契約の満了後もCIVICサービス上でご利用いただく場合、原則として同一製品のCCSPオンデマンドへ契約切替え

【補足】Red Hat Cloud Access ご利用時の各種手続きについて

前述の「表 2. Cloud Access 利用可能製品」で記載した製品のサブスクリプションを弊社 CIVIC サービス上でご利用いただく際には、お客様にて以下の手続きが必要です。

※Red Hat 社直接保守をご利用可能な有効なサブスクリプション契約をお持ちで、Red Hat アカウントを既にお持ちのお客様が前提の説明になります。

[ステップ 1] サブスクリプションのデタッチ



[ステップ 2] Red Hat 社のサイトにて Cloud Access 利用申込



[ステップ 3] 弊社 CIVIC サービス上へのサブスクリプション移行（VM インポート）



[ステップ 4] 弊社 CIVIC サービス上の RHEL ホストでサブスクリプションのアタッチ



[ステップ 5] 弊社のポータルサイト「サービスゲートウェイ」にて Cloud Access 利用報告

※弊社へ Cloud Access 利用報告をいただいた内容を基に、CCSP 契約に従いお客様の「法人名」、「住

所」、「サブスクリプションの種類と持込み数量」を毎月 Red Hat 社に報告させていただきます。

※各ステップにおける詳細な手順は、CUVIC サービスをご契約いただいたお客様へ資料を提供しております。

お問い合わせ

CUVIC サービスでの Red Hat 製品提供についてご質問は、下記よりお問い合わせください。

